

## 演 習 林 記 事

### (1) 昭 和 4 8 年 度

#### I 人事

- 1) 昭和48年4月1日付、柴田雄子が事務補佐員に採用された。
- 2) 昭和48年6月2日付、永井優技官は退職した。
- 3) 昭和48年12月1日付、技能補佐員藤久正文は、技能員に配置換になった。

#### II 施設・設備

- 1) 米野々演習林長井田林道改修工事は、幅員3.6m、延長215mが、工費4,500,000円で施工された。
- 2) 勝山試験地の土地改良工事を行った。
- 3) 理学部より管理換により、プレハブ69㎡を1林班入口に移築した。

#### III 経営

- 1) 1林班の小班の一部4.02haの天然生林を、松山市森林組合との伐木造集材作業請負契約により、モミ、ツガ、広葉樹等の素材286m<sup>3</sup>を生産し、5,388,000円で丸和林業株式会社へ売払った。
- 2) 間伐により、スギ素材30m<sup>3</sup>を生産し、11m<sup>3</sup>を113,000円で、松山市森林組合へ売払った。あと19m<sup>3</sup>の売払は、49年度に越した。なお、昨年度生産分スギ素材142m<sup>3</sup>は、2,688,000円で新建設工業株式会社へ売払った。
- 3) 当年度伐採跡地4.02haに、スギ9,200本、ヒノキ3,000本、アカマツ1,340本、カラマツ400本、計13,940本を植栽した。また、前年度植栽地に、スギ700本、ヒノキ400本を補植した。
- 4) 幼齡造林地23.08haの下刈を行った。つる切除伐は、60.66haに対して行った。
- 5) 苗木生産は、前年度末床替し、48年度中育成して来た床替苗から、スギ9,900本、ヒノキ3,400本、アカマツ1,340本、カラマツ400本、計15,040本の山行苗を生産した。

#### IV 山林保護対策

- 1) 米野々演習林の防火巡検を、毎週1回行った。
- 2) 昭和49年3月15日、松山市消防団湯山分団第2部長外4名に、事業区内の防火診断を依頼し、実施した。
- 3) 防火線保全のため、1,500mの刈払を行った。

#### V 演習林協議会

- 1) 昭和48年7月7日、第24回演習林協議会を開催し、昭和47年度事業報告、昭和48年度事業予定に関する件を討議した。

#### VI 全国大学演習林協議会

- 1) 昭和48年5月7日、全国大学演習林協議会定期総会が、東京教育大学農学部で開催された。
- 2) 昭和48年11月13日、全国大学演習林協議会秋季総会が、京都大学楽友会館で開催された。

#### VII 学生実験・実習

昭和48年度中に実施された、演習林における学生の実験・実習は、下記のとおりである。

実習課目	期 間	担 当 教 官	学 生
森林計画学	昭和48年10月13～16日	山畑教授, 藤本助教授	4回生 24名
森林土木学	“ 16～19日	伏見助教授	“ 23名
林木測定学	昭和49年 3月 5～10日	山畑教授, 藤本助教授	3回生 11名
造林学	“ 10～13日	中島幸雄教授, 金子助教授, 辻田助手	“ 8名

ほかに、造林学実習のうち、育苗実験・実習は、勝山試験地にて年間を通じて実施された。

#### Ⅶ 試験・研究

1) 昭和48年度中、演習林に試験地等を設定し、次の題名で試験を始めた。

① 愛媛県林業試験場との共同試験として、「関西地域スギクローン地域差検定林」を1林班の小班内に設定した。予定期間1期15年間。

② 林道のり面の保護工。昭和48年5月より3年間。

③ 枝打ち作業について。昭和48年5月より5年間。

2) 既存の試験地等については、継続して測定、調査が行なわれている。

3) 昭和48年度中に、演習林を利用した講座別の調査・研究等は、次の通りである。

① 米野々演習林の昆虫相調査、通年、演習林全域。(昆虫学講座)

② 択伐作業林の環境と稚苗の生長について、期間延長50年度末まで、勝山試験地。(森林計画学講座)

③ 生長錐の穿孔跡が材質に及ぼす影響について、資料提供。(木材理学)

④ 演習林の土壌調査、昭和48年8月中、1林班。(造林学講座)

#### Ⅷ 学部庭園管理

経常的な維持管理のみで、特記事項はない。

#### Ⅸ 昭和48年度予算および決算

##### 演習林歳入予算

収入目標額	
基準収入	3,999,000
木材引取税	75,000
計	4,074,000円

##### 歳入決算

素 材	438.88 m <sup>3</sup>	8,029,218
苗 木	300本	3,600
木材引取税		162,248
計		8,195,066円

演習林歳出予算(校費)

演習林経費	8,174,000
実習施設備費	3,100,000
理工系学部設備費	1,000,000
普通庁費	9,500
教官当積算校費	516,198
自動車維持費	58,000
自動車購入費	850,000
設備更新費	198,000
定員削減等経費負担額	△ 236,200
予算節約額	△ 275,567
前年度学内調整額	429,679
当年度〃	△ 631,848
庭園経費へ付替	△ 33,818
計	13,212,944円
(旅費)	
事業旅費	358,000
学内配分額	177,449
予算節約額	△ 11,126
計	524,323円

歳出決算(校費)

項目	内		計
	労賃	訳その他	
生産	65,600円	2,059,262円	2,124,862円
更新	159,040	476,905	635,945
保育	633,440	1,006,260	1,639,700
苗木	484,960	180,990	665,950
土調	142,320	142,992	285,312
諸木	58,400	76,040	134,440
保護	42,560	15,972	58,532
実習	90,720	213,605	304,325
試験	79,360	575,194	654,554
自動車	—	361,106	361,106
管研	271,421	216,097	487,518
業者	—	3,600,000	3,600,000
勝山改良工事	—	239,620	239,620
自動車購入	—	858,000	858,000
理工系設備	—	971,500	971,500
プレハブ移築	—	191,580	191,580
計	2,027,821	11,185,123	13,212,944

(旅費)	
事業旅費	306,433
会議旅費	108,070
研究旅費	122,320
計	536,823円

庭園管理歳出予算

庭園管理費	273,000
演習林より付替	33,818
計	306,818円

歳出決算

項目	内		計
	労賃	訳その他	
庭園管理	276,260円	30,558円	306,818円

長井田林道改修工事費(施設課所管)

予算	4,500,000円
決算(延長215m)	4,500,000円

## (2) 昭和49年度

### I 人事

- 1) 前林長猪瀬理教授の任期満了に伴い、昭和49年4月1日付、松島良雄教授が林長に就任した。任期は、昭和49年4月1日～昭和51年3月31日、である。
- 2) 昭和49年7月1日付、技能員藤久正文は、文部技官に任官した。

### II 施設・設備

- 1) 米野々演習林長井田林道改修工事は、幅員3.6m、延長260mが、工費5,500,000円で施工された。

### III 経営

- 1) 1林班の小班の一部3.52haの天然生林を、松山市森林組合との伐木造集材作業請負契約により、モミ、ツガ、広葉樹等の素材320m<sup>3</sup>を生産し、3,231,000円で松山市森林組合へ売払った。
- 2) 間伐により、スギ115m<sup>3</sup>、ヒノキ28m<sup>3</sup>、計143m<sup>3</sup>を生産し、前年度越分19m<sup>3</sup>を合せ162m<sup>3</sup>の内、森林組合へスギ83m<sup>3</sup>を2,009,500円、伊予木材株式会社へヒノキ28m<sup>3</sup>を880,000円、新建設工業株式会社へスギ51m<sup>3</sup>を976,000円で売払った。
- 3) 当年度伐採跡地3.52haに、スギ7,200本、ヒノキ6,000本、アカマツ2,860本、計16,060本を植栽した。また、2林班林地土羽面に、ナラ200本を植栽した。前年度植栽地に、スギ500本、ヒノキ500本、カラマツ50本を補植した。
- 4) 幼齢造林地27.5haの下刈を行なった。つる切、除伐は、45.14haに対して行なった。
- 5) 苗木生産は、スギ7,700本、ヒノキ6,500本、アカマツ2,860本、カラマツ50本、ナラ200本、計17,310本の山行苗を生産した。

### IV 山林保護対策

- 1) 米野々演習林の防火巡検を、毎週1回実施した。
- (2) 昭和50年3月14日、松山市消防団湯山分団第2部長外4名に、林内防火診断を依頼し、実施した。

### V 演習林協議会

- 1) 昭和49年7月4日、第25回演習林協議会を開催し、昭和48年度事業報告、昭和49年度事業予定に関する件を付議した。
- (2) 昭和50年3月14日、第26回演習林協議会を開催し、第4次経営計画編成方針案を付議した

### VI 全国大学演習林協議会

- 1) 昭和49年6月7日、全国大学演習林協議会定期総会が、静岡大学農学部で開催された。会長に京都大学演習林長を選び、事務局も京都大学演習林に移すこととなった。これにともない幹事校は、京都、岐阜、三重、京都府立、鳥取、愛媛の各大学となった。
- 2) 昭和49年11月8日、全国大学演習林協議会秋季総会並びに業務担当者会議が、京都大学楽友会館で開催された。

### VII 学生実験・実習

昭和49年度中、演習林において実施された学生の実験・実習は、下記の通りである。

実習課目	期 間	担 当 教 官	学 生
森林土木学	昭和49年10月15～17日	伏見助教授	4回生 6名
森林計画学	〃 17～21日	山畑教授	〃 6名
林木測定学	昭和50年3月5～10日	山畑教授、藤木助教授	3回生 11名
造林学	〃 10～13日	中島幸雄教授、金子助教授、辻田助手	〃 8名

ほかに、造林学実習のうち育苗実験実習は、勝山試験地において年間を通じ実施された。

### VIII 試験・研究

- 1) 前年度までに設定された試験地、試験林は、継続して調査研究が行なわれている。
- 2) 勝山試験地において、土壌改良試験を行なった。
- 3) 講座等の演習林利用状況は、次の通りである。
  - ① 米野々演習林の昆虫相調査、通年、演習林全域。(昆虫学講座)
  - ② 形質生長に関する研究、資料提供。(森林計画学講座)
  - ③ テープレコーダー利用による毎木調査、昭和49年5月中。2林班は。(森林計画学講座)
  - ④ モミ、ツガ天然生林の林木構成調査、昭和49年9月～50年3月。5林班は。(森林計画学講座)
  - ⑤ スギ伐採におけるチェンソーの作業時間について、昭和49年12月。1林班は。(農業機械学講座)
- 4) 昭和49年6月、演習林報告第11号、500部を発行した。
- 5) 昭和49年気象観測結果は別表に示す。



K 学部庭園管理

学部前庭花壇跡に、花木の植付を行なった。その他は、経常的な維持管理で、特記事項はない。

X 昭和49年度予算および決算

演習林歳入予算

収入基準	額	
木材引取	税	5,796,000
計		9,900,000
		5,895,000円

歳入決算

素材(482.54 m <sup>3</sup> )		6,957,355
木材引取	税	1,391,445
計		7,096,500円

演習林歳出予算(校費)

演習林経費		9,914,000
理工系設備費		1,000,000
普通庁費		1,142,000
教官当積算校費		626,651
自動車維持費		53,000
設備更新費		1,980,000
被服費		7,800
予算節約額	△	47,085
前年度調整額		631,848
当年度調整額	△	256,790
海拓水工学講座より付替		54,000
庭園管理費より付替		30,137
計		12,222,981円

(旅費)

事業旅費		369,000
会議旅費		84,000
教官研究旅費		70,858
連絡旅費		13,300
予算節約額	△	6,636
計		530,522円

歳出予算(校費)

項目	内		訳	計
	労	賃		
生更産	648,480		2,328,014	2,976,494
保種育苗	252,800		442,000	694,800
土苗	1,268,100		1,141,810	2,409,910
諸苗木	620,480		266,602	887,082
査護	1,226,400		989,245	1,111,885
保実	406,400		520,100	926,500
試験・研究	1,456,600		1,392,000	1,392,000
演習	350,400		1,530,640	2,987,240
自動車維持			599,195	634,235
理工系設備			727,310	727,310
管理			340,223	340,223
計	652,057		259,411	911,468
			999,000	999,000
計	3,785,897		8,437,084	12,222,981

(旅費)

事業旅費		265,602
会議旅費		151,440
教官研究旅費		62,670
連絡旅費		50,810
計		530,522円

庭園管理歳出予算

庭園管理費		433,000
花木植付へ		50,000
演習林へ付替	△	30,137
計		452,863

歳出決算(施設課所管)

項目	内		訳	計
	労	賃		
庭園管理	356,280円		46,583円	411,863円
花木植付	36,000		5,000	41,000
計	401,280		51,583	452,863

長井田林道改修工事費

予算		5,500,000円
決算(260 m)		5,500,000円

(別表)

## 昭和49年気象観測結果

種目別	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年	
気	平均	1.0 ( 2.4)	2.5 ( 2.9)	5.0 ( 4.7)	12.0 ( 11.7)	16.2 ( 15.4)	19.1 ( 19.2)	22.8 ( 23.6)	24.0 ( 24.0)	16.4 ( 19.4)	9.7 ( 13.4)	5.3 ( 7.9)	4.8 ( 3.4)	11.6 ( 12.3)	
	平均	6.2 ( 7.2)	7.5 ( 7.9)	10.8 ( 10.2)	18.5 ( 17.9)	22.6 ( 21.4)	24.4 ( 24.0)	27.6 ( 28.4)	29.8 ( 29.1)	24.8 ( 25.1)	20.0 ( 19.7)	14.5 ( 14.3)	10.0 ( 9.2)	18.1 ( 17.9)	
	最高	11.8 ( 15.0)	15.6 ( 17.8)	17.8 ( 20.0)	23.0 ( 26.7)	26.8 ( 31.6)	27.7 ( 29.9)	30.5 ( 32.6)	31.8 ( 33.0)	31.8 ( 33.0)	28.9 ( 30.4)	25.3 ( 26.3)	23.3 ( 23.3)	15.2 ( 16.5)	
	最低	-4.0 (-2.7)	-3.1 (-1.8)	-0.2 (-0.9)	5.0 ( 5.1)	9.2 ( 9.1)	13.1 ( 14.3)	18.9 ( 19.0)	19.1 ( 18.9)	12.9 ( 14.9)	6.4 ( 8.6)	6.4 ( 8.6)	-0.2 (-2.5)	-0.9 (-1.4)	6.4 ( 7.1)
温	平均	-7.5 (-7.8)	-9.8 (-9.8)	-7.0 (-7.2)	-3.0 (-3.4)	3.4 ( 2.0)	10.0 ( 9.0)	15.6 ( 14.5)	15.0 ( 11.3)	5.0 ( 5.0)	1.0 ( 1.0)	-5.5 (-5.5)	-4.6 (-5.2)		
	最低	7.5 ( 7.1)	7.5 ( 6.9)	7.6 ( 6.4)	7.3 ( 6.7)	7.1 ( 6.8)	7.8 ( 7.3)	8.8 ( 7.7)	8.2 ( 7.9)	7.8 ( 8.0)	7.5 ( 7.4)	7.4 ( 7.3)	7.6 ( 7.1)	7.7 ( 7.2)	
湿度	平均	3.3 ( 1.5)	3.1 ( 1.4)	1.5 ( 1.0)	2.3 ( 8)	1.5 ( 1.0)	1.3 ( 1.2)	5.0 ( 1.0)	3.0 ( 3.0)	2.8 ( 1.9)	2.0 ( 1.6)	2.8 ( 1.0)	2.2 ( 1.5)		
	日最大	25.4 ( 103.6)	103.6 ( 93.7)	91.0 ( 94.7)	286.9 ( 222.9)	98.7 ( 170.1)	157.7 ( 302.3)	337.8 ( 210.4)	29.6 ( 221.3)	440.9 ( 229.1)	217.7 ( 141.3)	51.4 ( 94.9)	82.5 ( 71.8)	1928.2 ( 1956.1)	
	6時間最大	24.9 ( 91.3)	42.0 ( 42.0)	17.5 ( 32.6)	129.4 ( 129.4)	36.1 ( 73.2)	44.6 ( 97.5)	113.5 ( 113.5)	20.7 ( 300.5)	271.0 ( 103.7)	56.6 ( 40.2)	33.4 ( 34.8)	30.8 ( 30.8)		
	量	21.8	21.2	12.0	38.0 ( 44.5)	23.0 ( 42.7)	37.0 ( 69.5)	41.0 ( 41.5)	17.6 ( 169.6)	161.5 ( 161.5)	29.5 ( 29.5)	8.7 ( 37.0)	13.0		
蒸発量	月	32.7 ( 29.4)	33.8 ( 33.3)	58.5 ( 63.0)	92.1 ( 85.6)	120.1 ( 98.4)	102.7 ( 82.1)	88.9 ( 105.3)	126.7 ( 110.7)	75.5 ( 76.4)	51.4 ( 55.8)	37.8 ( 41.8)	29.2 ( 32.9)	849.4 ( 814.7)	
	日最大	2.8 ( 2.8)	2.1 ( 3.0)	3.8 ( 5.5)	5.0 ( 6.9)	6.0 ( 7.1)	7.0 ( 7.0)	6.3 ( 8.5)	7.9 ( 8.4)	4.4 ( 5.7)	3.6 ( 3.6)	2.3 ( 4.6)	1.5 ( 3.8)		
	量														

( )内は、昭和45～49年の平均値および極値を示す。